

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 2月 15日

事業所名 きらり倉敷

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である		○	朝礼にて、当日の職員の配置状況を見て、役割分担など行っている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	朝礼や記録用紙を用いて、子どもの療育や遊びの場面での狙いを共有している。	遊び等の場面での狙いを職員間で情報共有し、子どもの成長を支援していく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人HPやWAMNETにて公表している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者評価を受審し改善に努めている。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部への研修は難しい状況であったが、Zoom等を活用して研修に参加している。	映像での研修は全職員共通で聴講・視聴できるメリットも生かして研修を行っていく。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		天候や感染症等のリスクに配慮しながら、活動内容を変更するなど工夫している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	家族等からの相談や必要な事項に関して、その日のうちに情報共有している。	全職員、情報の共有や解決に向けての時間の確保に努めていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		文字での記録以外にも、写真等の視覚的にも状況・表情が伝わるようにしている。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/			現在は医療的ケア児の受入実績はないが、受入の際は、関係機関との連携を図る。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		状況表や移行会議にて、情報共有等を行っている。		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○				対象を小学校2年生までとしているため、終了される際には次の通う場所や機関への情報提供や公益活動等での継続した関わりが出来ることなどの情報を伝えていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			実施が出来ていない取り組みである。今後必要となってくる連携先であると考えられるため、協力体制を整えていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	会議には出席していない。参加者に内容の確認を行っている。		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				希望はあるが、仕事の関係で参加が難しい家族・保護者へ向けた取り組みを行っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○				事業所単位での保護者同士の集まる機会を設けていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○				コロナ禍での顔の見える関係作りについて実施・参加していただける形を考えていく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		新型コロナウイルス感染症対応のBCPも作成している。		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		法人一斉避難訓練も定期的に行っている。		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				法人で行っている研修に加え、事業所での研修体制を充実させていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				

42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			